



梅本 聡の

ほんとのところ ①

うめもと・さとし
昭和49年生まれ、31歳。社会福祉法人「柚子の会」グループホームリブ花見川・ホーム長。デイサービスやホームヘルプサービスなど在宅介護部門の管理部長も務める。認知症介護指導者

無責任になってませんか

和田行男さんが『かいこの学校』を「卒業」ということで、今月から『かいこの学校』に「入学」させていただきました梅本聡です。どうぞ皆さんよろしく！

さて……いきなりですが、とある研修会場でのこと。

「痴呆が認知症に変わりましたけど、梅本さんどう思いますか？」

「あなたは どう思いますか？」

「私は言葉が変わっても、結局「何も」変わらないと思います」

この人、なかなかいい線いっているけど、すごい無責任。「何も」誤解や偏見、そして差別。そお、この人は認知症の状態にある人たちが、誤解や偏見、差別を受けているとわかっている、これはなかなかいい線。でも「何も」変わらない、これは介護の世界で飯を食っている専門職としてすごい無責任。

認知症の状態にある人たちの今に向き合っている僕たち専門職は、「何も」を変ええるチャンスと力があるし、変えさせない力もある。

好評の「和田行男放談」終了を受けて、今月から梅本聡さんの連載が始まります。梅本さん曰く、「介護の業界は支援（介護）も制度も、いろいろ曖昧な部分、まやかしの部分が多く、本質が明らかにされていない現状です」。この連載では、そうした「本質」ほんとのところ」にメスを入れます。

「ちよつと頑張れば何も」が変わる

家族で楽しむ旅すご

誰でも旅の思い出はあるものです。

今回は、そんな思い出を語り合いながら、世界に1つしかないオリジナルの「すごろく」を材料集めに始まり、作る楽しみと遊ぶ楽しみの思い出とともに長く遊べるのがいいですね。

【作り始める前に】

日常の話題で「旅」の思い出などを語り、そこから情報を集めて、雑誌の切り抜きなどをストックしておきましょう。その中で「かつて行った（行きたい）場所」「食べたい物」「欲しい物」などを選んで紙に貼りつける、楽しいすごろく作りを提案しましょう。「面白そうね!」という声が上がってから旅行のパンフレット、昔のスナップ写真などの材料を集めるのも楽しいものです。

【ポイント】

- ・なるべくお年寄り自身に参加してもらうために、旅の思い出について質問したり、切り抜いた素材を選んでもらいましょう。
- ・1日で作り上げようとせず、何日もかけ少しずつ作ると、話題もふくらみ、思いがけない大作になります。
- ・作る楽しみだけでなく、出来上がる過程の「語り合う楽しみ」も大切にしましょう。

【作り方】

- ① 雑誌やチラシから好みの部分を切り抜く。

あんなコ

何せ僕たち専門職の支援ひとつで……、認知症という障害の捉え方ひとつで……、そして認知症の状態にある人たちが人として生活を営むことを考えるか考えないかで、認知症の状態にある人たちの目を、死んだ目にも生きた目にもできるんです。

「何も」に気づいているなら、今の自分には何ができるかな？ 調べて、自分のできることを介護専門職一人ひとりがちょっとでもいいから頑張ったら、認知症の状態にある人たちへの誤解や偏見、差別がなくなっていくんじゃないかな。だって専門職は数多くいるんだもの、すごいパワーだよなあ。言葉を変えたのは偉い人たちだったかもしれないけど、ここから先は僕たち現場の人間の出番ですよおお!!

生活者の力に気づく

とある日の昼頃。うちのグループホームで。

「米本さん（仮名）、みんなで散歩に行くんですけど、一緒にどうですか」

「いやオレは留守番しているよ」

この方一人でいるので、職しぱらくしてホ「あれ、何だかふと見るとキライパン片手に移している。

「米本さん、一「だって腹減った作ったんだよ焼きうどんをは大したことだ、似ているしわっているのが当たっているのが当たら職員。反省。を作る米本さんたり前の姿だもその人の能力活を営む当たり方が大事だと、んです。認知症さんにも教えて